

環境との共生

■ 「あさひ・いのちの森」での環境活動 ～生物多様性活動への取り組み～

2007年、何もなかった1万㎡の工場跡地に約2,000人の地域の皆様と共に植樹を行った「あさひ・いのちの森」には地域では希少となった種を含む500種以上の動植物が現在生息しており、「いのちの方舟」とも評され、外部からも自然再生の取り組みが評価されています。また、敷地内の水流で育てたホタルを鑑賞する「ホタルまつり」には、これまでに3万人以上の地域の方々に参加いただくとともに、取り組みに関連する発表等を通じて地域の自治体や環境省、海外のホタルに関する団体等との繋がりが広がっています。

1. 旭化成(株)富士支社の生物多様性に関わる取り組み

取り組みの内容は大きく以下①～④の4点となります。

①地域の自然の再生

富士支社の敷地内 1ha に、地域の自然環境の再生と保全を目指したエコトープとして「あさひ・いのちの森」を作りました。支社周辺の「田子の浦」の自然環境とともに、水田・里山といった、人と自然との関わりによって成立する風景を再生しています。



入口からの景観

②希少生物の復活

森に生息する、周辺地域では見られなくなった希少な生物を、地域の自治体や大学機関と連携して、他の環境の再生に利用する取り組みを進めています。



←希少種の「ナヨナヨスレナグサ」

「オニナルコスゲ」

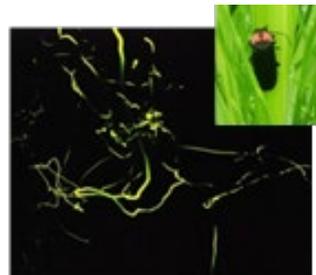
これまでに地域種のゲンジボタル、ヘイケボタル、ギンブナ、クロメダカ、トノサマガエル、ドジョウ等が移入され、その数を増やしています。

③再生した自然を利用したコミュニケーション

15年間の取り組みによって再生された自然環境は、地域の小中学生等への環境教育や、富士支社内で飼育したホタルを放流し、地域の人々を招待して鑑賞する「ホタルまつり」の実施等、自然とのふれあいの機会を提供するとともに、地域の方々とのコミュニケーションの場となっています。以下に紹介します。

ホタルまつり

毎年5月下旬頃、「旭化成ホタルまつり」が開催され、3,000～4,000人の来場者で賑わう地域の一大行事となっています。近年はコロナ禍のため、社員と同居家族に限定して開催しています。



「あさひ・いのちの森」のゲンジボタル

自然とのふれあい

こどもエコクラブ（毎年春・秋）や虫さがし、富士市内の小中学生の環境教育等の形で、地域の子もたちに自然と関わる機会を提供しています。（コロナ禍のため中断）



こどもたちが参加する虫さがしイベント

田んぼ

約400㎡の田んぼでは毎年、モチ米が育てられています。従業員による田植え、稲刈、脱穀で収穫されたモチ米は、モチつき大会で活用されています。



稲刈り1（毎年10月）



モチつき大会（毎年1月）

④取り組みで得た成果の還元、自然再生プログラムとしての

他への展開

取り組み当初からの森における環境の変化をモニタリングした結果から、浮島ヶ原の湿地の再生に関する研究、富士山麓におけるシカ害による植生への影響に関する研究、「ホタルまつり」に供するホタルの幼虫の飼育方法に関する国際的なジャーナル等への投稿等を行うほか、講演等も積極的に実施し、自然の再生・管理に関するノウハウやプログラムの発信、普及に取り組んでいます。また、取り組みや管理方法等についての社外からの見学や問い合わせにも対応しています。さらに、自然と共生する社会を実現するための知見の共有や協力を目的とした環境省 SATOYAMA イニシアティブにも参加しています。



「あさひ・いのちの森」の取り組みを紹介した講演やSDG'sについての講演(高校生向け)の様子

2. 森の評価

SEGES Stage3認定



(財)都市緑化機構が主催する『SEGES (シージェス…社会・環境貢献緑地評価システム) そだてる緑』部門におけるStage3認定を取得しています。

また、植樹から10年を記念して、現在までの様子をまとめた記念誌を作成しています。

国土交通省 グリーンインフラ大賞

国土交通省が主催する第2回グリーンインフラ大賞生態系保全部門で優秀賞を受賞しました。



3. 「あさひ・いのちの森」の取り組みを全国へ！

里山の放棄や、開発等の跡地の荒廃は、日本全国の問題となっています。富士地域という地域がもつ自然資源を活かした「あさひ・いのちの森」の活動によって得られた知見やノウハウは、そのような放棄地や荒廃地における、その土地の特色を活かした地域のあるべき自然の姿を再生する取り組みへの活用が期待でき、人と自然が共存する環境をつくることでSDG s 11「住み続けられるまちづくりを」への貢献も目指します。

① 環境面の貢献

地域のかつての自然環境を再生し、生物種のストレージ「いのちの方舟」として機能しつつあり、SDGs15「陸の豊かさを守ろう」に貢献しています。



④ 普及・汎用性

地域の自然再生のモデル、方法論としての確立を目指すとともに、研究結果の発表、他組織への情報提供等、「あさひ・いのちの森」で得た知見やノウハウを積極的に発信している。



⑤ 革新・ユニーク性

1haという限られた面積内に、なにもない更地から、湿地から草地、森林まで幅広い自然環境を再生しており、時間を掛けて作り上げた希少種を含む多様な生物が息する環境を維持、管理しています。



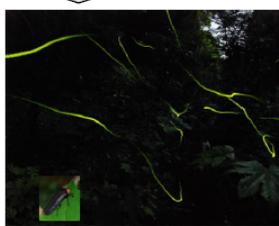
② 社会・経済面の貢献

地域の方々自然と触れ合う場として、自然資源の価値について改めて認識する機会を提供しており、SDGs4「質の高い教育をみんなに」に貢献しています。



③ 地域資源の活用

地域の本来の自然環境を再生するために、創設時に地域の土壌や在来種を使用するほか、地域で出る湧き水を、工場の事業活動のみではなく、取り組みにも利用しています。また、水田の管理や植林において、地域の人々、組織OBや障がい者などの人材を活用しています。



⑥ 継続性

旭化成グループの生物多様性への考えやビジョンとリンクした取り組みであり、常に変化する自然環境から得られるノウハウ等を活用・発信することで新たな繋がりや次への展開に繋がっています。また、地域の方々との関係性を構築する接点となっている点も、継続する理由です。

